

昭島市 市民意識調査

概要版

市民意識調査概要版は、平成19年7月に実施した「昭島市 市民意識調査」を要約したものです。

～ 調査の概要 ～

(1) 調査地域	昭島市全域
(2) 調査対象	満16歳以上の男女個人
(3) 標本数	1,000人
(4) 抽出方法	層化二段無作為抽出法
(5) 調査方法	郵送留め置き一訪問回収法
(6) 調査期間	平成19年7月2日～17日
(7) 有効回収率	80.1%

～ 調査項目 ～

(1) 定住意向	(8) 都市景観
(2) 暮らしの満足度	(9) 少子高齢化
(3) 災害対策	(10) 広報
(4) 公共交通	(11) 情報化
(5) 日常生活	(12) 男女共同参画
(6) 地域活動・生涯学習	(13) 市政・市役所
(7) 環境	

平成19年10月

昭島市

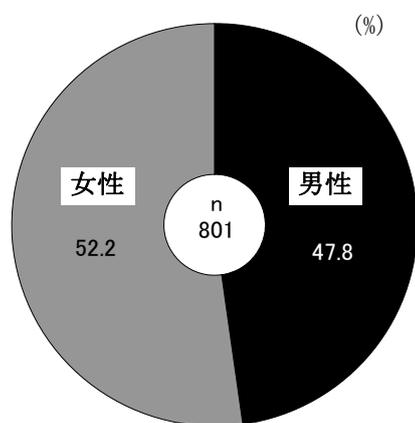
調査の結果

※本概要版を見る際の注意事項

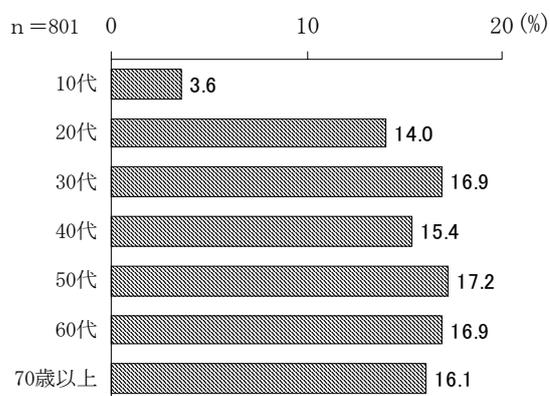
- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。
- (3) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出している。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。

調査回答者の属性

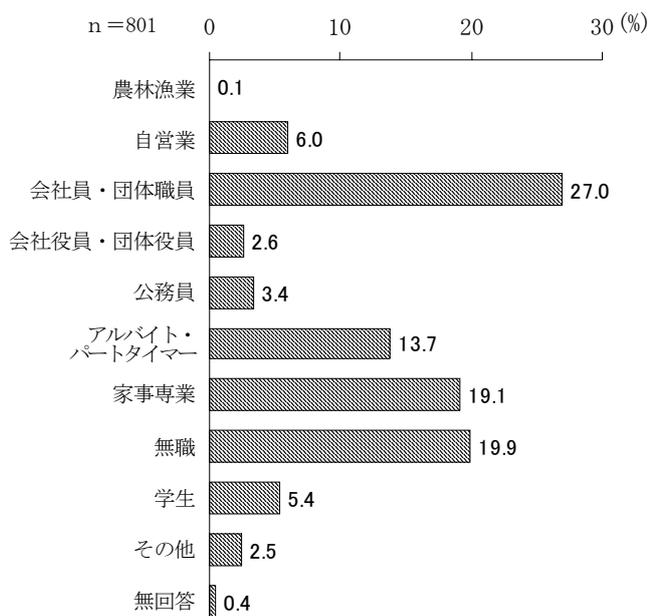
【性別】



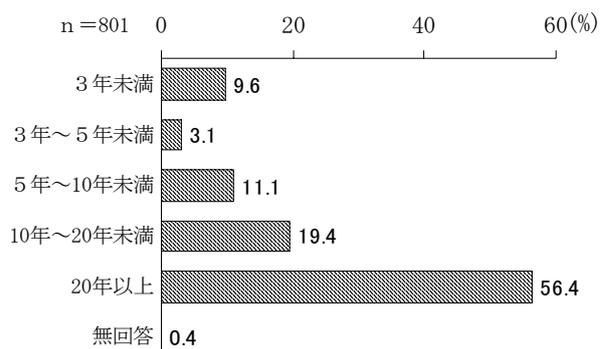
【年齢】



【職業】



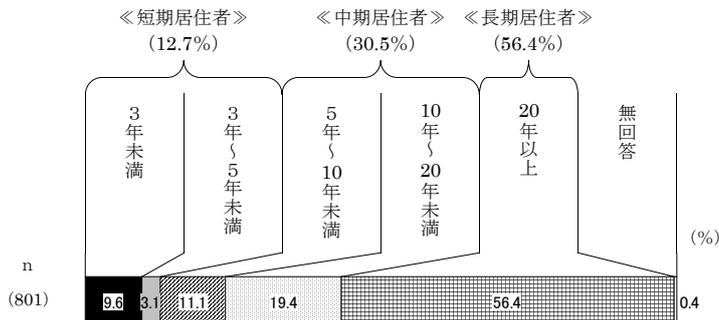
【居住年数】



1 定住意向

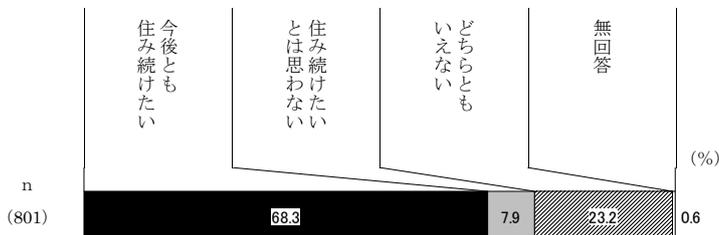
(1) 居住年数

居住年数20年以上の長期居住者が5割台半ばを超えて最も高い。



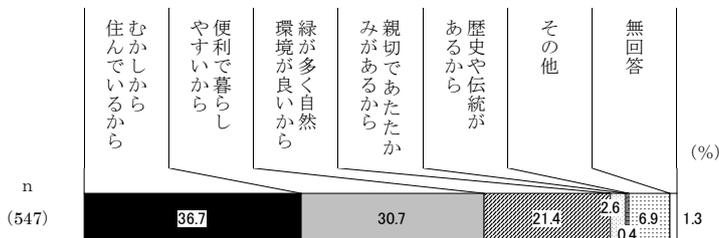
(2) 定住意向

「今後とも住み続けたい」が7割に近く最も高い。一方、「住み続けたいとは思わない」は1割に満たない。



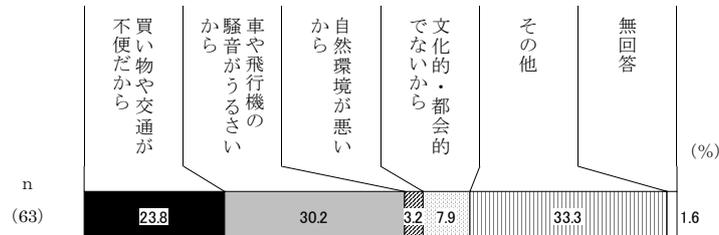
(3) 住み続けたい理由

「むかしから住んでいるから」が3割台半ばを超え最も高い。以下「便利で暮らしやすいから」が約3割、「緑が多く自然環境が良いから」が2割強と続いている。



(4) 住み続けたいとは思わない理由

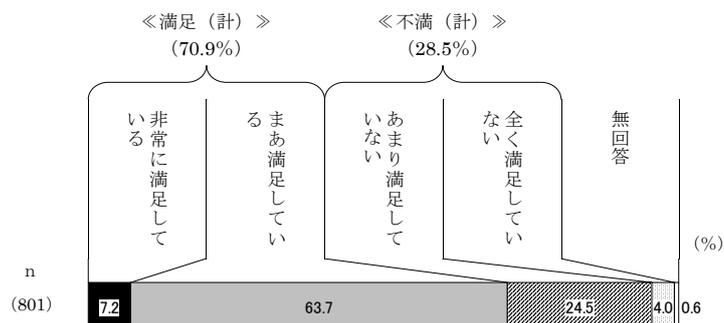
「車や飛行機の騒音がうるさいから」が約3割で最も高い。次いで「買い物や交通が不便だから」が2割台半ば近くとなっている。



2 暮らしの満足度

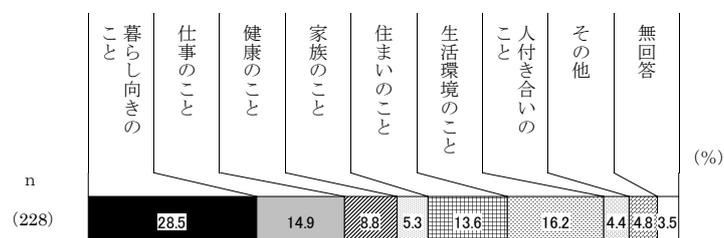
(1) 暮らしの満足度

「非常に満足している」と「まあ満足している」をあわせた《満足（計）》は約7割となっている。



(2) 満足していない理由

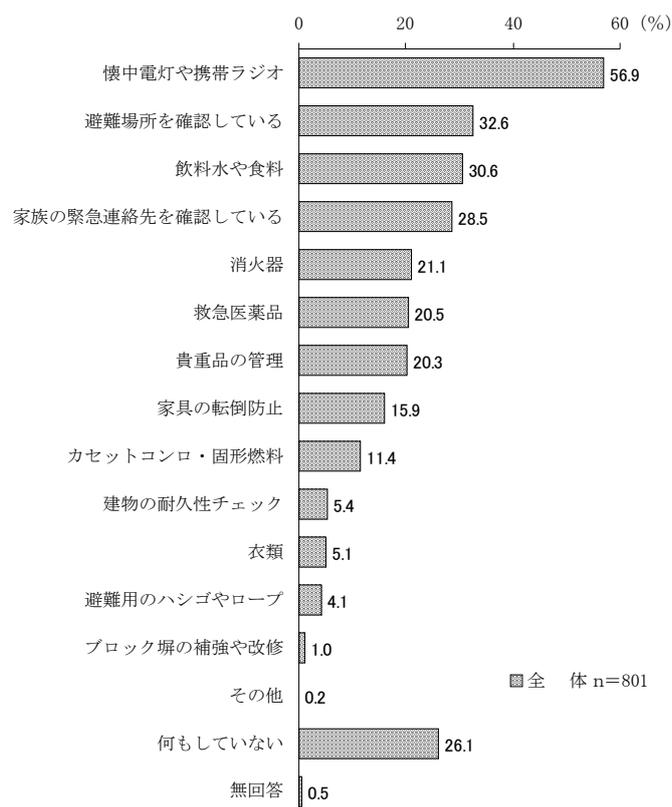
「暮らし向きのこと」が3割に近く最も高い。次いで「生活環境のこと」が1割台半ばを超え、「仕事のこと」が1割台半ば近くとなっている。



3 災害対策

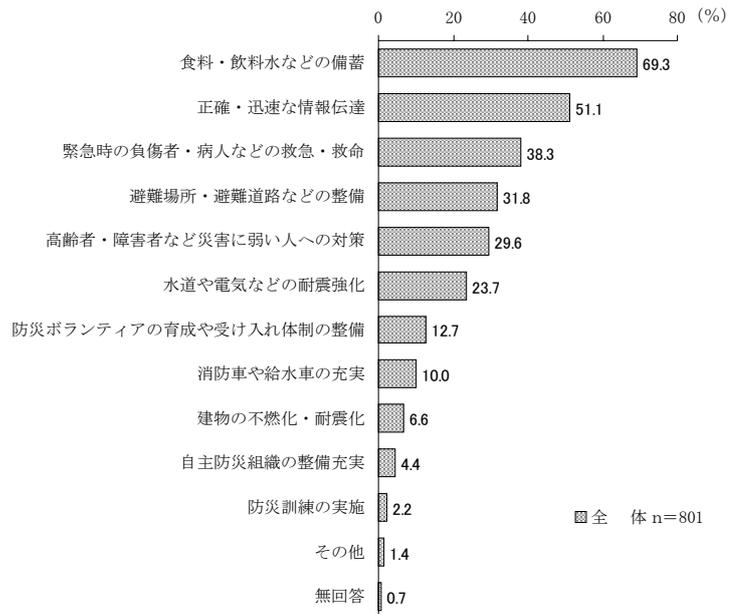
(1) 災害に対するの備え

災害に対して日頃から備えていることは、「懐中電灯や携帯ラジオ」が5割台半ばを超えている。以下、「避難場所を確認している」、「飲料水や食料」、「家族の緊急連絡先を確認している」が3割前後で続いている。（複数回答）



(2) 市の災害対策

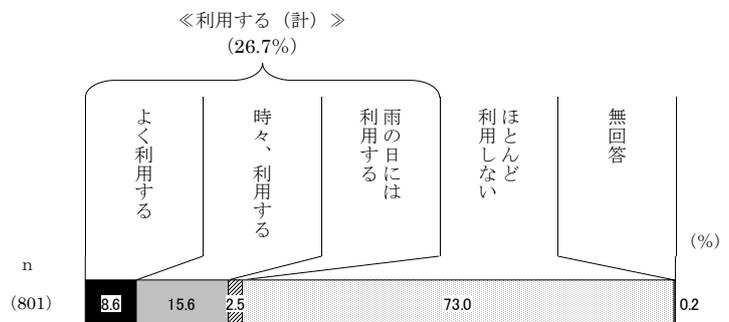
災害時に昭島市がすべき対策は、「食料・飲料水などの備蓄」が7割弱で最も高い。次いで「正確・迅速な情報伝達」が半数を超えており、以下「緊急時の負傷者・病人などの救急・救命」、「避難場所・避難道路などの整備」と続いている。
(複数回答)



4 公共交通

(1) バスの利用頻度

「よく利用する」、「時々、利用する」、「雨の日には利用する」をあわせた《利用する(計)》は2割台半ばで、「ほとんど利用しない」が7割台半ば近くを占める。



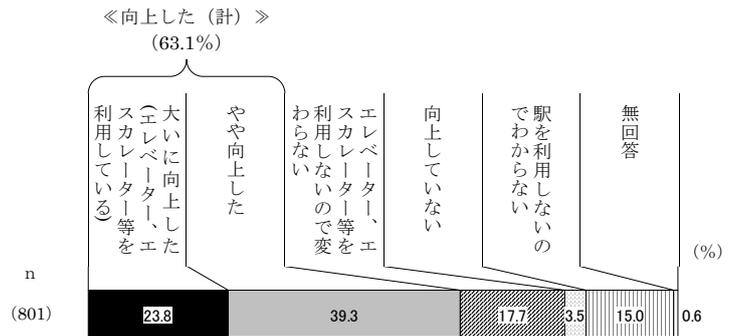
(2) バスを利用しない理由

「他の交通手段を利用するから」が7割に近く最も高い。次いで「近くにバス路線、バス停留所がないから」が1割強となっている。



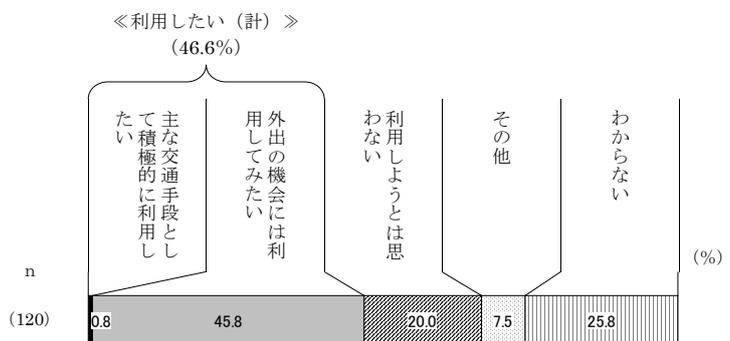
(3) 駅のバリアフリー化による利便性の向上

市内の各駅のバリアフリー化による利便性は、「大いに向上した(エレベーター、エスカレーター等を利用している)」と「やや向上した」をあわせた《向上した(計)》は6割台半ば近くとなっている。また、「エレベーター、エスカレーター等を利用しないので変わらない」は1割台半ばを超え、「駅を利用しないのでわからない」は1割台半ばとなっている。



(4) バリアフリー化による駅の利用意向

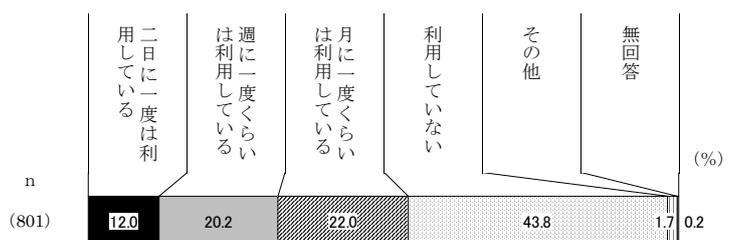
「駅を利用しないのでわからない」と答えた方に、バリアフリー化された駅の利用意向を聞いたところ、「主な交通手段として積極的に利用したい」と「外出の機会には利用してみたい」をあわせた《利用したい(計)》は4割台半ばを超えている。一方、「利用しようとは思わない」は2割となっている。



5 日常生活

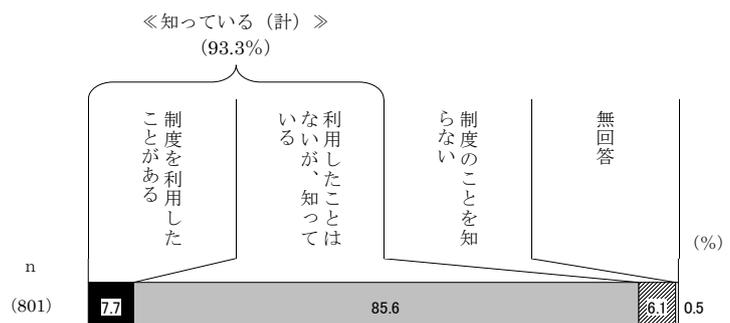
(1) 地元商店の利用頻度

「月に一度くらいは利用している」が2割強、「週に一度くらいは利用している」が約2割となっている。一方、「利用していない」が4割台半ば近い。



(2) クーリングオフ制度の認知度

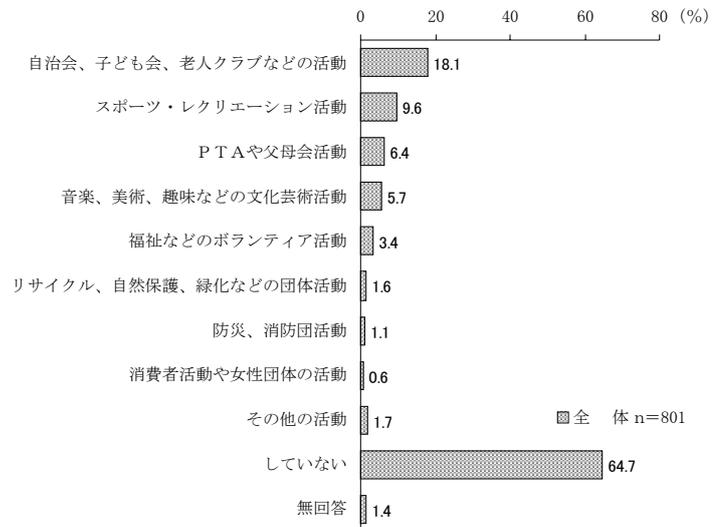
「制度を利用したことがある」、「利用したことはないが、知っている」をあわせた《知っている(計)》が9割台半ば近い。一方「制度のことを知らない」は1割に満たない。



6 地域活動・生涯学習

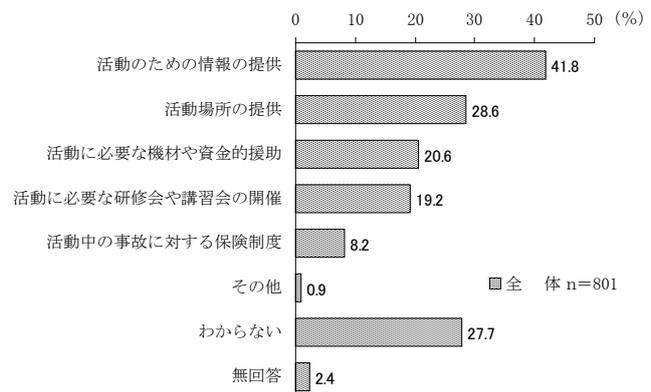
(1) 地域活動の状況

「自治会、子ども会、老人クラブなどの活動」が2割近く最も高い。次いで「スポーツ・レクリエーション活動」が1割弱となっている。一方、「していない」が6割台半ば近くとなっている。(複数回答)



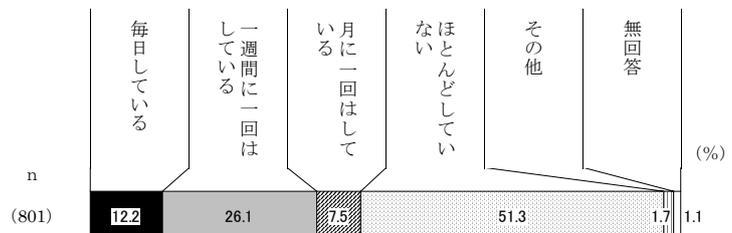
(2) 市民活動のために市が力を入れるべきこと

「活動のための情報の提供」が4割強で最も高い。以下「活動場所の提供」、「活動に必要な機材や資金的援助」、「活動に必要な研修会や講習会の開催」と続いている。(複数回答)



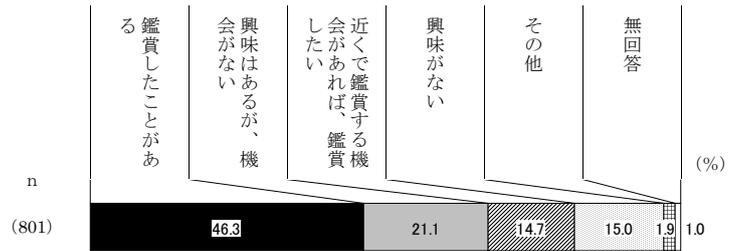
(3) スポーツやレクリエーションを親しむ程度

「一週間に一回はしている」が2割台半ばを超え、次いで「毎日している」が1割強となっている。一方、「ほとんどしていない」は半数を超える。



(4) 芸術鑑賞経験の有無

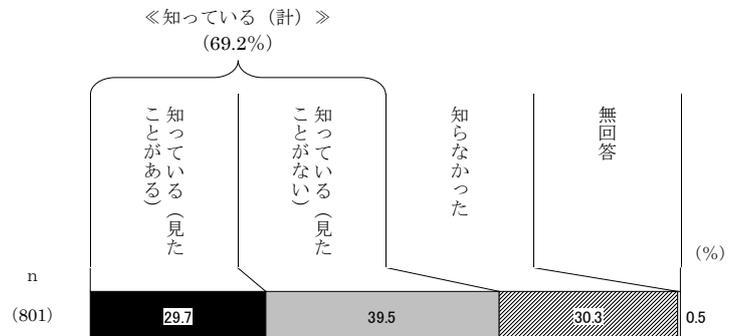
この1年間の芸術鑑賞経験については、「鑑賞したことがある」が4割台半ばを超えて最も高い。一方、「興味はあるが、機会がない」が2割強、「興味がない」が1割台半ば、「近くで鑑賞する機会があれば、鑑賞したい」が1割台半ば近くとなっている。



7 環境

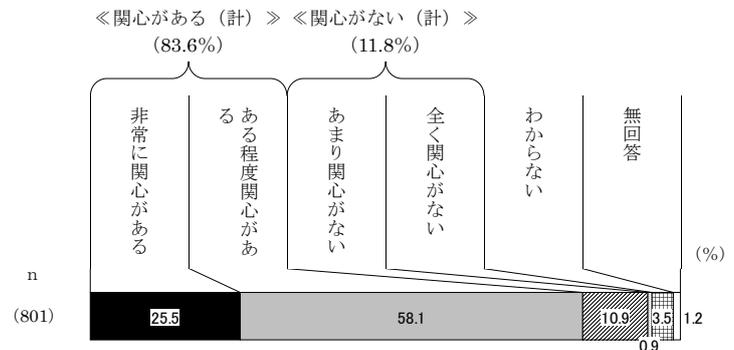
(1) 昭島でのホテル鑑賞の認知度

昭島でホテル鑑賞ができることについては、「知っている（見たことがある）」と「知っている（見たことがない）」をあわせた《知っている（計）》は約7割となっている。一方、「知らなかった」は約3割となっている。



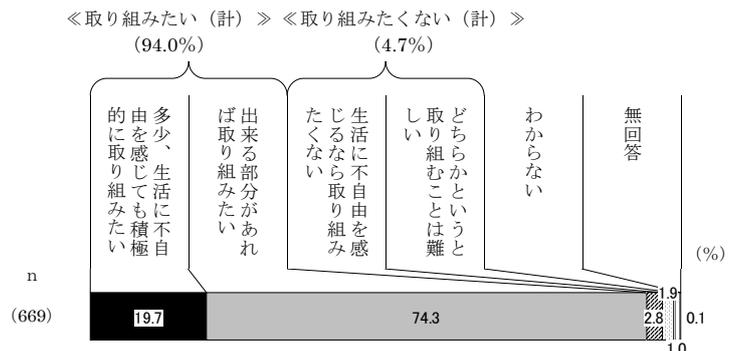
(2) 地球温暖化への関心度

「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」をあわせた《関心がある（計）》は8割台半ば近くとなっている。一方「あまり関心がない」と「全く関心がない」をあわせた《関心がない（計）》は1割強となっている。



(3) 地球温暖化防止への取り組み

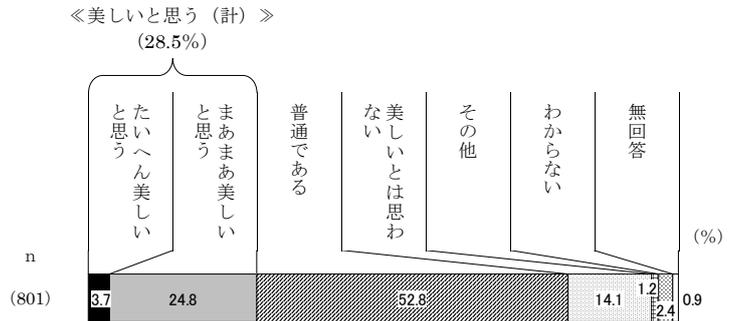
地球温暖化に関心がある人に防止活動への意欲を聞いたところ、「多少、生活に不自由を感じても積極的に取り組みたい」と「出来る部分があれば取り組みたい」をあわせた《取り組みたい（計）》は9割台半ば近くとなっている。



8 都市景観

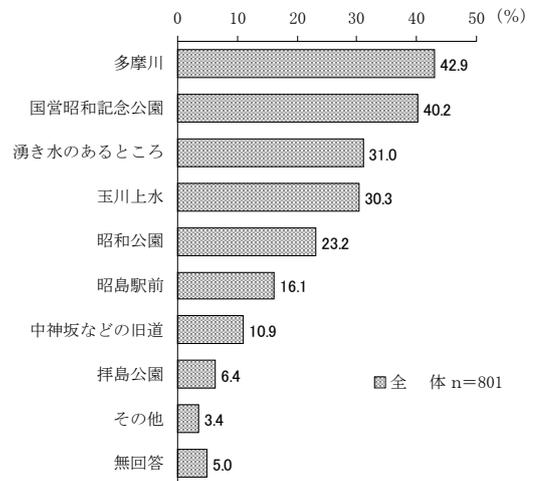
(1) 街並みの美しさ

昭島の街並みについては、「たいへん美しいと思う」と「まあまあ美しいと思う」をあわせた「美しいと思う（計）」が3割近くとなっており、「美しいとは思わない」を14ポイント上回る。また、「普通である」が5割強となっている。



(2) 昭島らしい街並みや景観

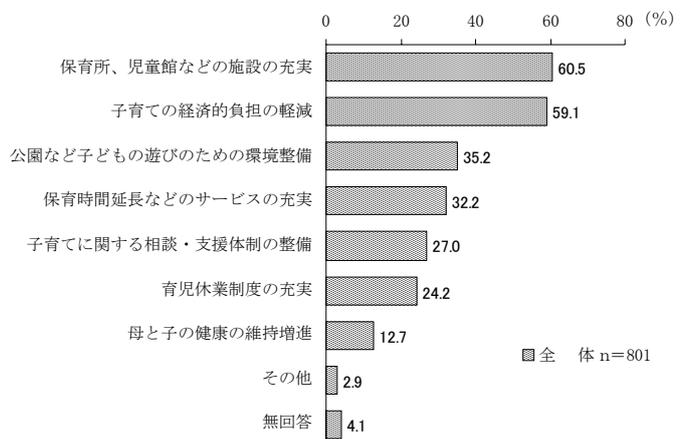
「多摩川」が4割強、「国営昭和記念公園」が約4割と高くなっている。以下「湧き水のあるところ」、「玉川上水」が約3割で続いている。（複数回答）



9 少子高齢化

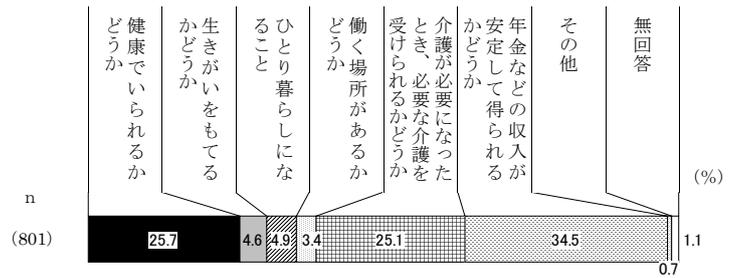
(1) 子育てをしやすい環境づくりに必要なこと

「保育所、児童館などの施設の充実」が約6割、「子育ての経済的負担の軽減」が6割近くで高くなっている。（複数回答）



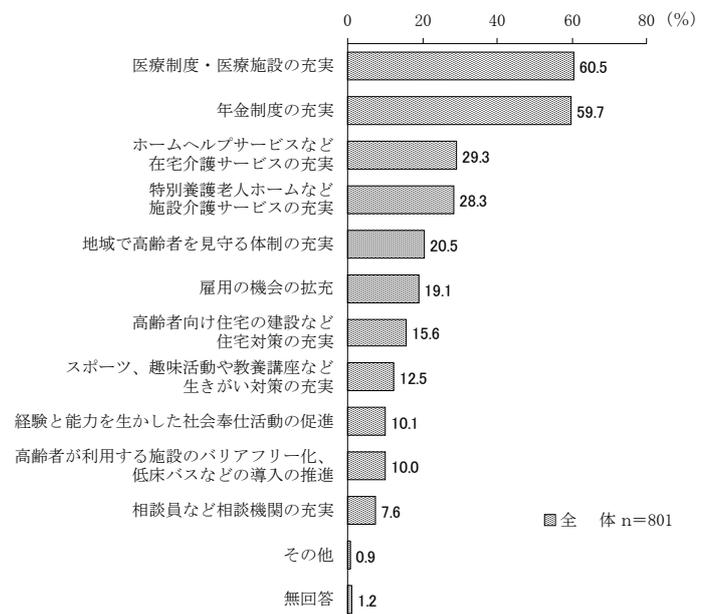
(2) 老後について最も不安を感じること

「年金などの収入が安定して得られるかどうか」が3割台半ば近くで最も高い。次いで「健康でいられるかどうか」、「介護が必要になったとき、必要な介護を受けられるかどうか」が2割台半ばとなっている。



(3) 高齢者のために重要な施策

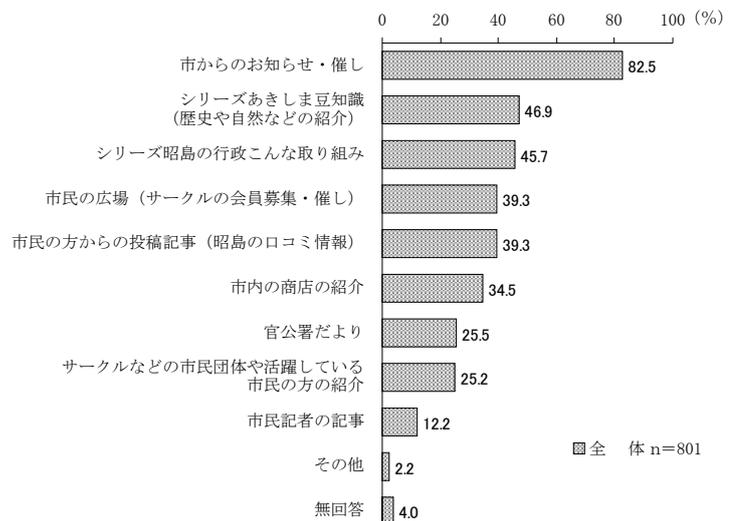
「医療制度・医療施設の充実」が約6割、「年金制度の充実」が6割近くで高くなっている。以下「ホームヘルプサービスなど在宅介護サービスの充実」、「特別養護老人ホームなど施設介護サービスの充実」、「地域で高齢者を見守る体制の充実」と続いている。(複数回答)



10 広報

(1) 「広報あきしま」に求める内容

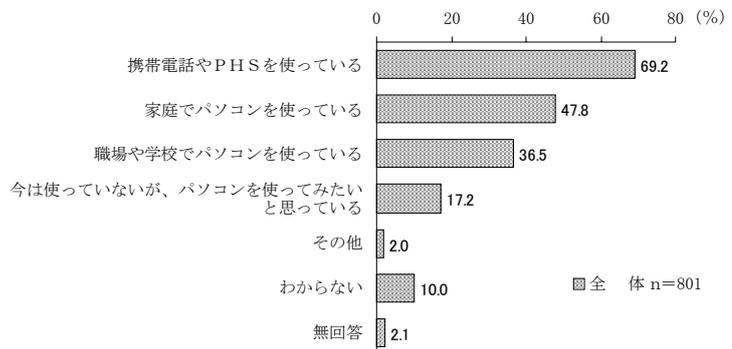
「市からのお知らせ・催し」が8割強で最も高くなっている。以下「シリーズあきしま豆知識（歴史や自然などの紹介）」、「シリーズ昭島の行政こんな取り組み」、「市民の広場（サークルの会員募集・催し）」、「市民の方からの投稿記事（昭島の口コミ情報）」と続いている。(複数回答)



11 情報化

(1) IT利用度

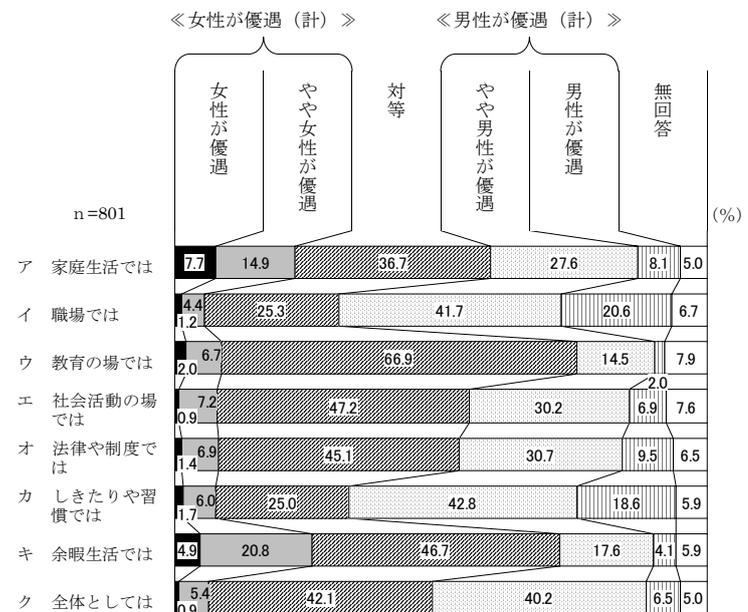
「携帯電話やPHSを使っている」が7割弱で最も高い。以下「家庭でパソコンを使っている」、「職場や学校でパソコンを使っている」と続いている。(複数回答)



12 男女共同参画

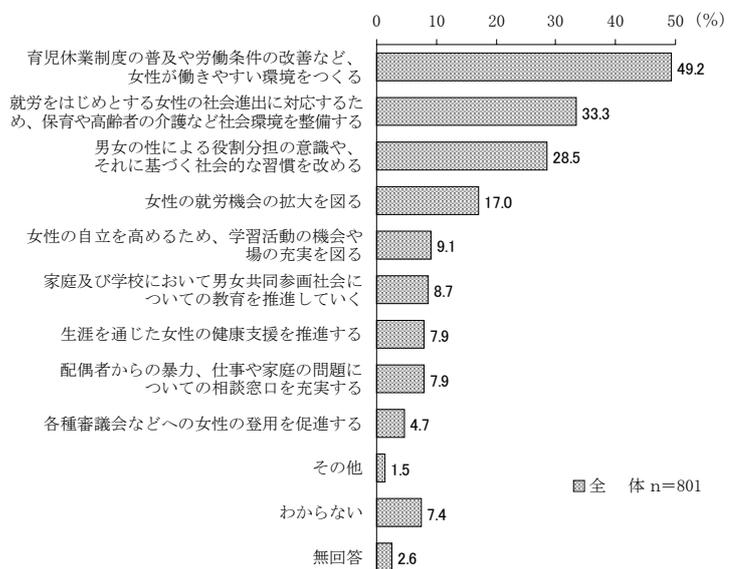
(1) 男女の地位

「対等」が「ウ 教育の場」で6割台半ばを超え最も高くなっており、次いで「エ 社会活動の場では」、「キ 余暇活動では」で4割台半ばを超えている。「女性が優遇」と「やや女性が優遇」をあわせた《女性が優遇(計)》では、「キ 余暇生活では」で2割台半ばと最も高く、次いで「ア 家庭生活」で2割強となっている。「男性が優遇」と「やや男性が優遇」をあわせた《男性が優遇(計)》では、「イ 職場では」、「カ しきたりや習慣では」で6割強と高くなっている。



(2) 女性の社会参画や地位向上に必要なこと

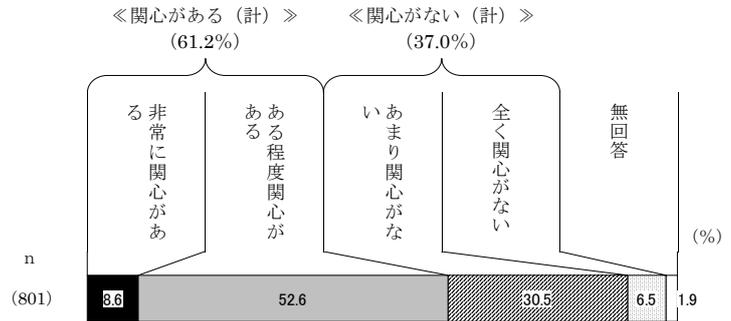
「育児休業制度の普及や労働条件の改善など、女性が働きやすい環境をつくる」が5割弱で最も高い。以下「就労をはじめとする女性の社会進出に対応するため、保育や高齢者の介護など社会環境を整備する」、「男女の性による役割分担の意識や、それに基づく社会的な習慣を改める」が3割前後で続いている。(複数回答)



13 市政・市役所

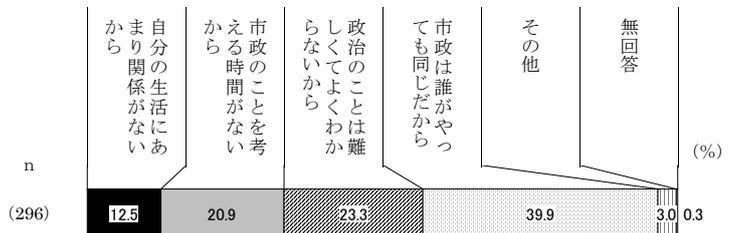
(1) 市政への関心度

「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」をあわせた《関心がある(計)》が6割強となっている。一方、「あまり関心がない」と「全く関心がない」をあわせた《関心がない(計)》が3割台半ばを超えている。



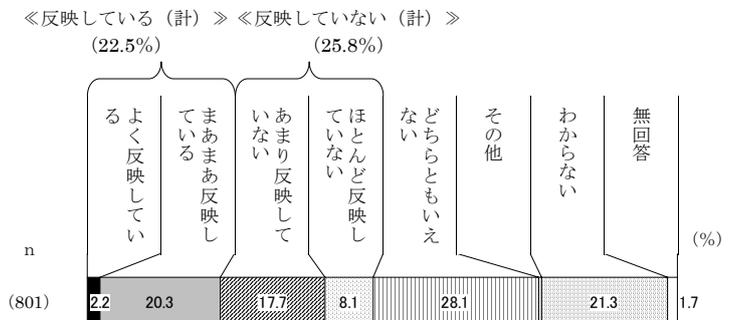
(2) 市政に関心がない理由

「市政は誰がやっても同じだから」が4割弱で最も高い。以下「政治のことは難しくよくわからないから」、「市政のことを考える時間がないから」と続いている。



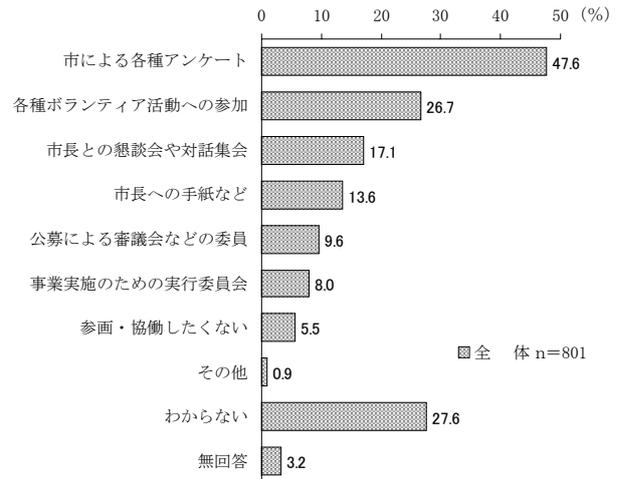
(3) 市民の声の市政への反映度

「よく反映している」と「まあまあ反映している」をあわせた《反映している(計)》が2割強となっている。一方、「あまり反映していない」と「ほとんど反映していない(計)》は、4人に1人の割合となっている。また、「どちらともいえない」は3割近くになっている。



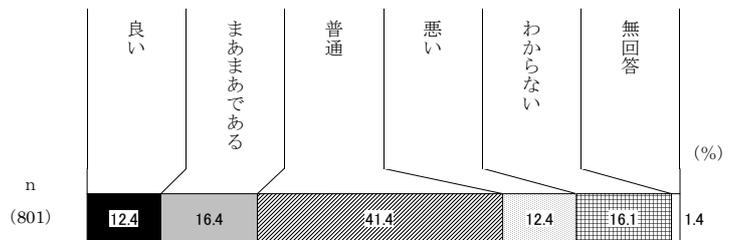
(4) 市政への参画・協働のための方法

「市による各種アンケート」が4割台半ばを超えて高くなっている。以下「各種ボランティア活動への参加」、「市長との懇談会や対話集会」、「市長への手紙など」と続いている。(複数回答)



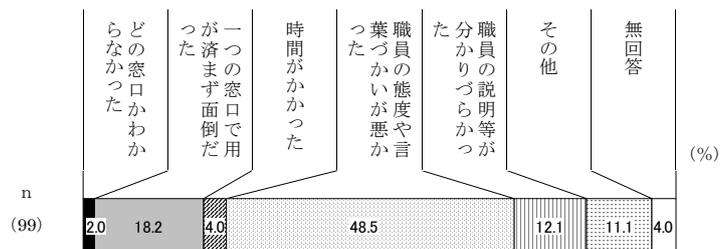
(5) 市役所の窓口サービス

市役所の窓口サービスについては、「良い」と「悪い」がそれぞれ1割強で、「普通」が4割台半ば近くと最も高い。



(6) 窓口サービスが悪いと感じた理由

「職員の態度や言葉づかいが悪かった」が5割近くで最も高くなっている。以下「一つの窓口で用が済まず面倒だった」、「職員の説明等が分かりづらかった」と続いている。



昭島市 市民意識調査 **概要版**

平成 19 年 10 月

発行 昭島市企画部秘書広報課
〒196-8511 東京都昭島市田中町一丁目 17 番 1 号
電 話 042-544-5111 (代)

実施 株式会社サーベイリサーチセンター
〒116-8581 東京都荒川区西日暮里二丁目 40 番 10 号
電 話 03-3802-6711 (代)